

本学のGPA制度

☒ GPAって何？

GPA(成績指標値)とは、Grade Point Averageの頭文字をとったもので、学生が履修した科目の成績を点数化し、その合計点を修得した単位数で割り算した、いわゆる1単位あたりの平均点のことを言います(計算式は下記参照)。これは、米国で一般に実施されている成績評価方法です。GPAには、学期ごとの学期成績指標値と、入学時から通算の累積成績指標値の2種類があります。ここでは、GPA制度をすでに導入している工学部の取り組みについて紹介します。

☒ 何のためにGPA？

GPAは、文部科学省により推奨されている厳格な成績評価方法の一つです。GPAは各学期で数値として計算されるため、成績の伸びや学習状況などを細かく客観的に判断することができます。GPAでは、合格科目だけでなく、不合格科目や受講を途中でやめた科目についても成績評価の対象となるため、学生自身の授業への取り組みも把握することができます。

この制度を導入することにより、学習の到達度を明確にすることができるため、学生の学習意欲を向上させることを目的の一つとしています。また、教員による学習指導にも効果的に活用ができます。

☒ GPAの算出方法

(1) 授業科目の成績の査定

S(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(50点以上60点未満)、F(50点未満)とし、D、Fを不合格、Dは再試験扱い、Fは再履修扱いとします。工学部では、以上のような6段階評価を行っています。大学によっては5段階評価などを採用しているところもあります。

(2) 成績指標算定のための評価点

S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点、F=0点とします。好成绩ほど配点が高くなります。

(3) 学期成績指標値の計算

$$\text{学期成績指標値} = \frac{\text{取得点の合計}}{\text{履修登録した単位数の合計}}$$

$$\text{取得点} = (\text{当該科目で得た評価点}) \times (\text{その科目の単位数})$$

(4) 累積成績指標値の計算

$$\text{学期成績指標値} = \frac{(\text{各学期で得た取得点の合計})\text{の総和}}{(\text{各学期で履修登録した単位数の合計})\text{の総和}}$$

学期成績指標値、累積成績指標値ともに小数点第2位以下を切り捨てにします。詳細は、工学部の履修案内を参照してください。

☒ GPAの計算例

以下では、わかりやすく簡単な例を示してGPAの計算方法を紹介します。仮に一学期に表のような成績を取った場合の学期成績指標値の計算をすると、以下のようになります。

科目名	単位	評点	評価	評価点	取得点=単位×評価点
機械製図	1	88	A	4	1×4=4
材料力学	2	65	C	2	2×2=4
熱力学	2	53	D	1	2×1=2
流れ学	2	82	A	4	2×4=8
機械力学	2	38	F	0	2×0=0
システム制御基礎	2	25	F	0	2×0=0
計算力学Ⅱ	2	80	A	4	2×4=8
機械工学実験法	2	92	S	5	2×5=10
工業英語	2	63	C	2	2×2=4
合計	17	-	-	-	40

学期成績指標値=40/17=2.3(小数点第2位以下を切り捨て)

以上の計算から、D判定やF判定が成績に大きく影響しているのがわかります。

☒ 最低GPA基準の設定

工学部では、卒業研究に着手する要件として、累積成績指標値が2.0以上であることが必要です。また、卒業するための要件として、同様に累積成績指標値が2.0以上であることが必要です。履修登録し、途中でリタイヤした科目などがたくさんありますとGPAが下がりますので、必要単位数を取っていても卒業研究に着手できなかつたり、卒業できなかつたりする場合があります。

☒ 進路変更勧告

学期成績指標値が3学期間連続して2.0未満の場合、または、連続する2学期間の修得単位数が8単位以下の場合に、進路変更勧告を行います。積極的に進路変更を促すためではなく、該当者に教員が個別面談し、学習指導を徹底するのが本来の目的です。

以上、工学部で取り組んでいるGPAについて紹介してきましたが、ご理解頂けたでしょうか。最初にGPAを開始した学年が現在3年生で、来年度はじめて卒業を迎えます。GPAが浸透し、広く活用されるようになって、学生の学習意欲が向上し、質の高い学習が実現することを願っています。